

# ニューイヤー・コンサート



©井村重人

指揮:石崎 真弥奈

1986年生まれ。東京音楽大学指揮専攻卒業、同大学院指揮研究領域修了。指揮を広上淳一、高関健、下野竜也、汐澤安彦、時任康文、三河正典の各氏に師事。また井上道義、ジャンルイジ・ジェルメッティの各氏の講習会を受講。2016年PMFのコンダクティング・アカデミーに選出され、ジョン・アクセルロッド氏に師事。

2011年度、公益財団法人新日鉄住金文化財団の指揮研究員に選ばれ、紀尾井シンフォニエッタ東京(現紀尾井ホール室内管弦楽団)などで研鑽を積む。

2017年イタリアにて、第2回「ニーノ・ロータ国際指揮者コンクール」でニーノ・ロータ賞(優勝)および聴衆賞(マテラ、ターラントの各地にて)を受賞。2012年、第16回 東京国際音楽コンクール(指揮)において入選(1位~3位なし)、同時に聴衆賞を受賞。

これまでに、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、セントラル愛知交響楽団、関西二期会、東京佼成ウインドオーケストラ、広島ウインドオーケストラ、ぱんだウインドオーケストラなどと共演。

オペラにおいては、モーツァルト「魔笛」、フンパーディンク「ヘンゼルとグレーテル」、プッチーニ「修道女アンジェリカ」、「ジャンニ・スキッキ」などを指揮。また、日生劇場、日本オペラ振興会、神奈川県民ホールなどにて、音楽スタッフとしても研鑽を積んでいる。

音楽科を指導する先生と指揮者の音楽広場「むすびタイ!」を主宰し、音楽教育の発展にも力を入れている。



©武藤章

ピアノ:田村 響

2007年10月ロン・ティボー国際コンクールにおいて弱冠20歳で第1位に輝き、一躍世界に注目されるに至った。

2009年2月ビシュコフ指揮ケルン放送交響楽団の定期演奏会デビューと日本ツアーを行った他、これまでに、N響、読響、都響、新日本フィル、日本フィル、名古屋フィル、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、東京シティ・フィル、神奈川フィル、仙台フィル、群馬などと共演。日本各地でリサイタルを行う。

室内楽活動にも力を入れており、アントニオ・メネセス、宮田大、三浦文彰の各氏等と共演を重ねるほか、同世代のアーティストとも多数共演する。また、2019年3月にはマニエル・ルグリがプロデュースするバレエ作品にも出演し、自身初となるダンス・ステージとのコラボレーションを果たした。

活動は日本をはじめ、フランス、オランダ、ドイツ、オーストリア、ポーランド、イタリア、ロシア、エジプト、ブラジル、中国、台湾、ベトナムに及ぶ。

1986年愛知県安城市生まれ。3歳よりピアノを始める。18歳でザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学に留学。2015年大阪音楽大学大学院修了。深谷直仁、清水皇樹、クラウド・ソアレス、クリストフ・リースケの各氏に師事。これまでに4枚のソロCDをリリース。

受賞歴は、2003年アリオン賞、2006年出光音楽賞、2008年文化庁長官表彰・国際芸術部門、2008年安城市市民栄誉賞、2009年ホテルオークラ音楽賞、2015年文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞、2015年愛知県芸術文化選奨文化新人賞、2017年京都市芸術新人賞などがある。

現在、京都市立芸術大学准教授として後進の指導にも力を入れている。



管弦楽:Style KYOTO管弦楽団

『伝統と革新の融合』をモットーに誕生したオーケストラ。京都をはじめ関西で活動する演奏家を中心に構成され、従来のオーケストラ文化やクラシックの枠にとらわれず、ロック、ポップス、また、アニメ、ゲームなど日本が誇るサブカルチャーとのコラボレーションも積極的に行う。ボーダーレスな音楽活動を通し、将来を担う音楽家の育成を図りながら、古都「京都」から、次世代へ受け継がれる革新的なオーケストラ文化の創出を目指している。